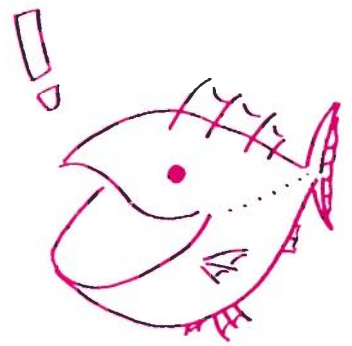


あなたのための情報教育



文・永井克彦
(Nagai, Katsuhiko)
情報教育研究センター

オープンするコンピュータ教室

広島大学では、教養的教育における情報教育の支援を行うとともに、学生諸君が自主的にコンピュータを利用した学習ができる環境を整備する目的で、平成八年十月に情報教育研究センター(Research Institute for Information Science and Education)を発足させました。

平成九年四月から、西図書館内の北側の部分に、情報教育研究センターのコンピュータ教室をオープンする予定で準備が進められています。教室に入ると、九十台のコンピュータが並べられています。一つの机には、コンピュータが二台とその間に授業等で表示用に使われるディスプレイが置かれています。各コンピュータは、NEXTSTEPという基本ソフトのもとで動いています。これは、Windows 95とは違いますが、マウスを使ったウィンドウ操作という点で基本的には同じです。

みんなのことがわかります

特徴は、どの端末を使っても、各人の利用環境は同じであるという点です。たとえば、前回と同じ席のコンピュータが空いていなくて、別の席のコンピュータを使う場合も、前回あなたが終わったところから始められるというわけです。

使えるソフトウェアは、電子メール、ネットニュース、WWWなどのインターネット利用や、ワープロ、描画等の文書資料作成ソフト、プログラム言語学習支援ソフト、UNIXのX-ウィンドウソフト

ト等が整備される予定です。センターでは、コンピュータ経験の少ない人にも、これらの使用方法をできるだけ簡単に学べるような手引書や、コンピュータを使いながら学べるオンラインマニュアル等を提供する用意をしています。

センターは授業時間以外は開放されていますから、積極的に利用して、学習活動、課外活動に役立ててください。そのなかで、こういう使い方をしたいとか、ああいう事ができれば便利だといったアイデアをセンターの方に寄せてください。センターはできるだけそれらを取り上げ、より使いやすい環境を学生諸君と一つしよに創っていきたく考えています。

一人ひとりのパスワード

センターの利用資格のことを、アカウントと呼びます。平成九年度入学生には、情報教育研究センターのアカウントが、自動的に登録されています。入学時にもらう初期パスワードを大切に保存しておいてください。センターを利用するためには必要です。平成八年度以前入学の学生諸君も、希望者にはアカウントを発行します。情報教育研究センターのシステムは、細部を除いて現在の総合情報処理センターの教育端末システムと同じですから、総合情報処理センターの利用経験のある人はすぐ使えるようになりますし、経験のない人も歓迎します。希望の受け付けの詳細は後の機会にお知らせします。

情報化社会の一員になる前に

さて、センターのコンピュータは、広

島大学のHiNet(ハイネット)と呼ばれるネットワークに繋がれ、HiNetは、インターネットを通して世界中に繋がっています。センターのコンピュータを通して、現在の進展しつつある情報化社会に直面する、あるいはできることになります。

情報化社会に適切に対処していくためには、単に特定のソフトウェアが使えるということではなく、各自の目的に応じた情報の収集、その整理と利用、自らの情報の発信ができる能力が必要になります。そのためにはコンピュータや情報伝達に関する基礎的な知識、技能を習得するとともに、いろいろな分野においてコンピュータがどのように使われているかを学ぶ必要があります。

情報化社会がどのような可能性を持ち、またどのような問題を孕んでいるかを考える必要があります。また、コンピュータの前に座れば、ネットワークを通じた情報化社会の一員になり、その社会でのモラルをわきまえておく必要があります。

このような点を学生諸君に学んでもらうことが、広島大学の教養的教育での情報教育の目的です。情報科目としては、講義を中心とした「情報活用概論」、「情報活用基礎」や、実習を中心とした「情報活用演習」が、必修科目あるいは選択科目として用意されています。「情報活用基礎」は一部ネットワーク利用を中心とした実習を含む科目です。これらの科目を履修して、学んだ内容をセンターで実際に確かめ、さらに自分なりの活用方法を開拓してください。